

～ 果樹カメムシ類の発生に注意 ～

果樹カメムシ類の集合フェロモントラップへの誘殺数が平年より多くなっています

- (1) 県内の5地点に設置しているチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップのうち南部の2地点において、5月下旬以降の誘殺数が急増しています(図1)。
- (2) また、6月第6半旬までの、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ(写真1)、クサギカメムシ(写真2)、ツヤアオカメムシ(写真3)) 累積誘殺数は過去の多発年(注意報発表年)並に多くなっています(図2)。

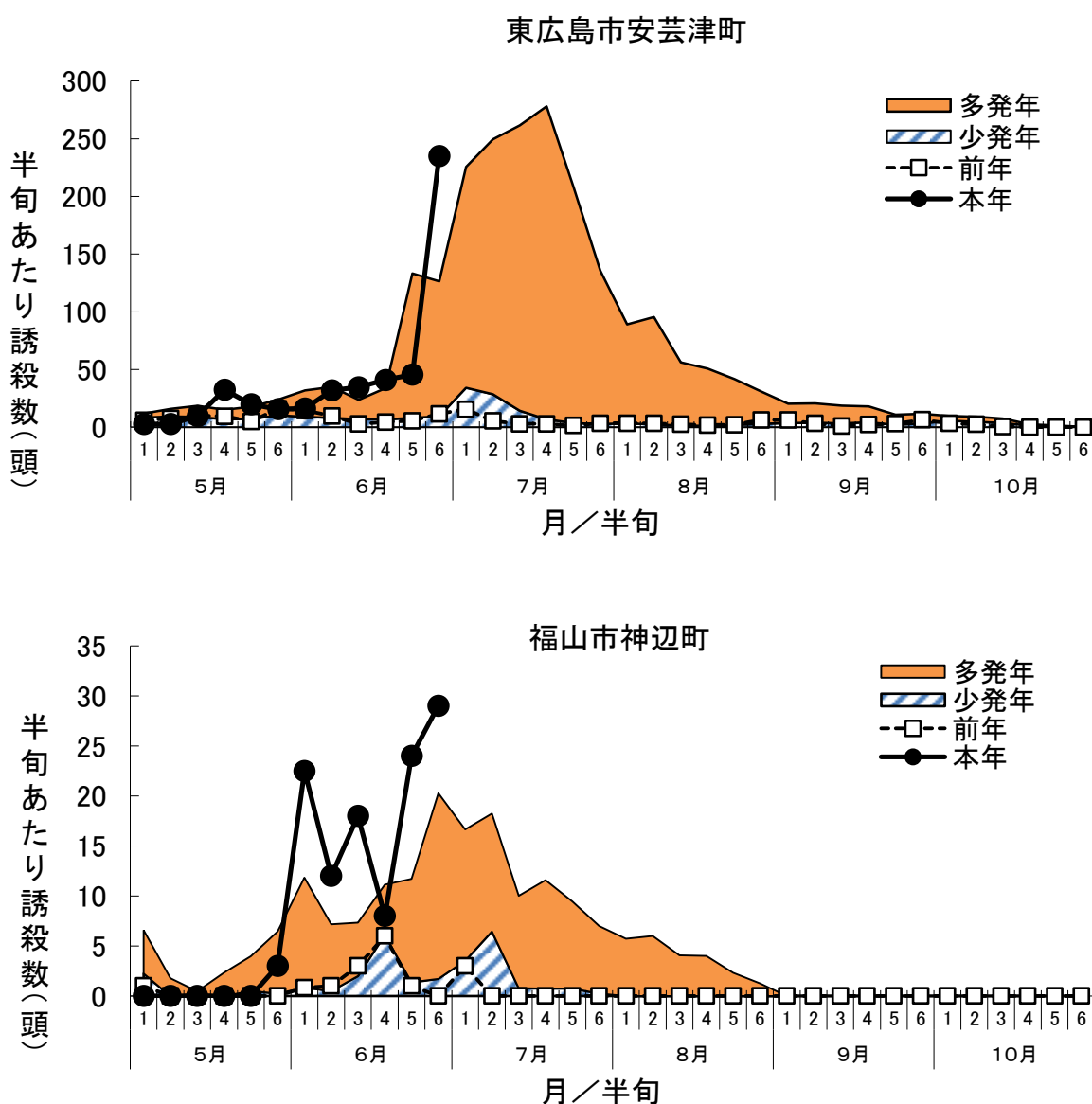


図1 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

注1 多発年：過去10年のうち注意報を発表した年(平成22, 24, 26年)の平均値

注2 少発年：東広島市安芸津町は平成20年以降の注意報を発表した年を除いた平均値、福山市神辺町は平成22年以降の注意報を発表した年を除いた平均値

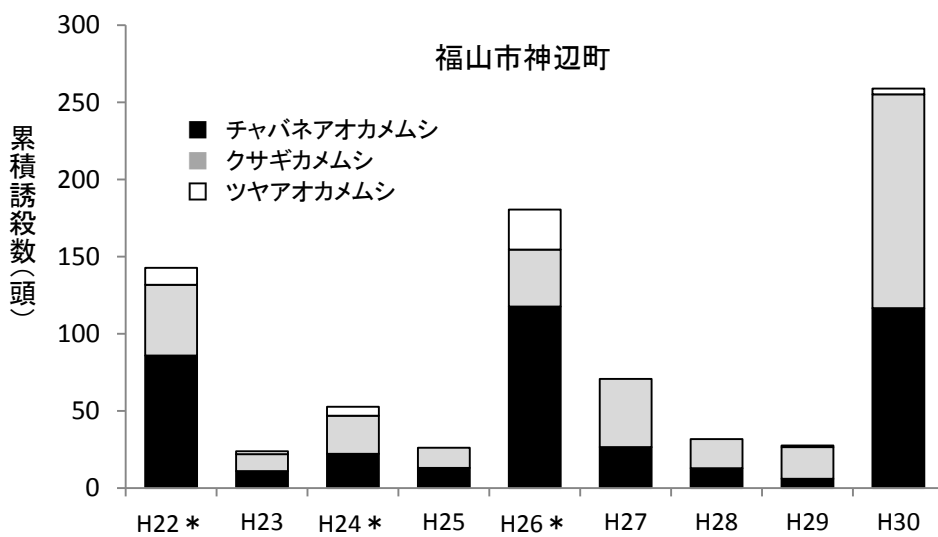
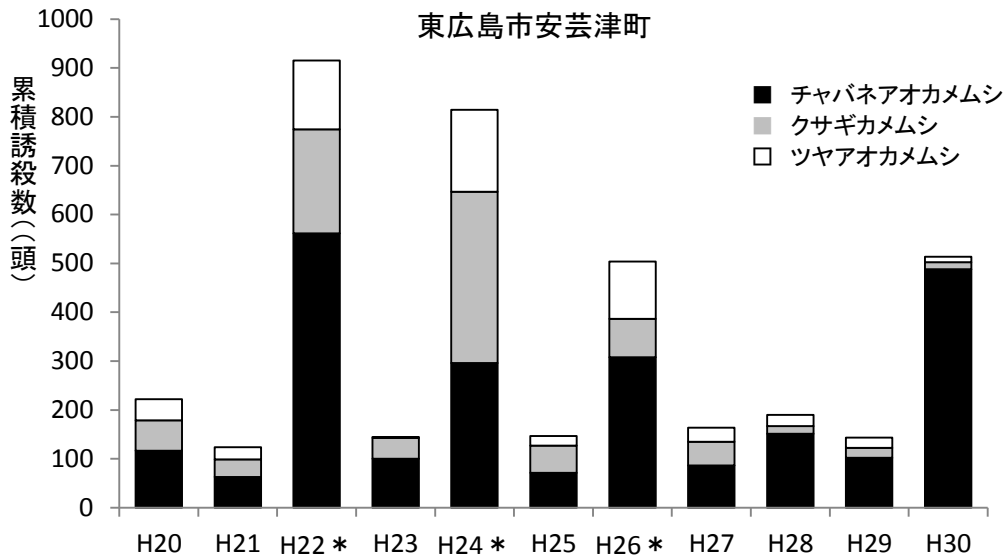


図2 果樹カメムシ類の集合フェロモントラップへの年度別累積誘殺数

注1：5月第1半旬～6月第6半旬までの累積誘殺数

注2：調査年度の*は、注意報発表年を示す。

ほ場をよく確認し、園地への飛来に注意しましょう

- (1) 果樹カメムシ類の発生量は、年により差が大きく、また飛来数は園地間差が大きい。このため、夕方や早朝に園地をよく観察し、飛来量をよく把握したうえで防除を行いましょう。
- (2) 果樹カメムシ類の加害は長期間に及ぶため、継続してほ場の観察に努め**防除後も園地への飛来が認められる場合には追加の防除を実施**しましょう。
- (3) 有袋栽培においても、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意しましょう。
- (4) 合成ピレスロイド系の農薬は天敵への影響が大きいため、連用するとハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなるので注意しましょう。
- (5) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、希釈倍率、使用時間、使用回数等)を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底しましょう。
- (6) なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>)」を参照してください。



写真1 チャバネアオカメムシ



写真2 クサギカメムシ



写真3 ツヤアオカメムシ



写真4 果樹カメムシによる被害果実（なし）

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
東広島市八本松町原 6869
TEL : 082-420-9662 (直通)
広島県ホームページ (植物防疫)
(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>)



広島県 植物防疫

検索

